石桜同窓会報

石桜同窓会
盛岡市仁王田甫
岩手高等学校内
電話 (2) 8145
印刷 川口荷札

第二代学校長 栃内官次郎氏
第三代學校長 佐々木哲郎氏

総会

会費問題 終身会費制に

昭和三十六年八月五日午後二時より母校図書館に於て三十六年度同窓会総会が開かれた。参加者百余名、山中校長、三田義清氏（理事長御子息）も出席され盛会であった。規約改正では懸案の会費問題が論議の焦点となったが、結局、終身会費（千円）制度へ踏みきることになった。以下は日野岳総務から寄せられた総会報告である。

総務から総会の経過概要並に決定事項を御報告申上げます。

㈠、松見同窓会長より会員各位の御協力に対する謝意と、会務運営の方針、将来への指向にふれた挨拶があり、山中学校長からは各界における同窓生の活躍状況の報告、三田理事長からは当総会の盛会さと、将来性について称讃祝辞があった後、佐藤新平氏（二回卒、水沢高校教頭）を議長として協議が進められました。

㈡、昭和三十五年度決算について別記の通り承認されましたが、この決算は三十四年八月一日から三十六年七月三十一日までの二か年分のものです。

㈢、昭和三十六年度予算について、同窓会発足以来予算案なるものが上程されることなく、執行結果だけが報告され承認されてきましたが、本年度から別記のような予算案を編成し総会に上程、種々活発な意見の開陳があり決定されました。

尚支出予算項目中の会報発行は年一回としますが、母校の「石桜新聞」を同窓会分として千五百部を購入し、タブロイド版程度の同窓会報（即ち本紙）と共にお送りするわけです。

㈣、事務手当というのは母校在勤の同窓各位に名簿作製をはじめとして、事務処理萬般について御奉仕を願って居りますが、いよいよ本格的運営に取りかかることになれば、校務外の事務が更に多端となり、御苦労願いますので御慰労の一端として差上げるように計上したものです。

㈤、母校も創立以来三十七周年となり、本会が同窓生自身によって運営されるようになってからも十数年になりました。しかるに基礎財源がないため、何一つ母校推進に役立つ事業もなし得ない現状であります。今すぐに出来ないとしても他日それが出来ますように、今から逐次財源の蓄積をしてゆきたいと考えて、今年度取敢えず十万円だけを基金とし、向後毎年残金の一部を基金に積立ててゆきたいと思ってます。

㈥、会則一部改訂について会側第十二条によれば（昭和二十七年改正）卒業時に入会金百円、会費百円（毎年）となって居りますが、現在の経済事情からいっても、又今後の同窓会の活動からいっても、この程度では不適当だと思はれます。論議のうえ、新卒業生（昭和三十七年三月卒）からは卒業時に入会金百円、終身会費千円を納入すること。又過年度卒業生は改めて千円を納入することになりました。（分納も可）

納入方法は、❶個人毎に同封の振替用紙利用、❷職場支部毎に一括して、❸地域支部毎に一括して、❹各回理事に委託して、❺直接同窓会事務局に、の何れの方法でもよろしいですが、何れにせよ本会の運営財源が新卒業生のみに依存しないよう御協力を願います。

㈦、役員改選について、別記の通り。

㈧、顧問推戴について、三田理事長殿、前校長佐々木哲郎殿、PTA会長殿（PTA会長は歴代在任中とする）の御三人を顧問として就任方をお願いする。

以上が総会の概要ですが引きつづいて、小野博士（第三回卒、岩手医大助教授）のアメリカ、ハーバード大学留学中のスライドによるアメリカ見聞のお話しがあり有意義に過しました。

お願い

住所、氏名、勤務先等の変更がありました際は御手数でも同窓会事務局までお知らせ下さい。会員の消息等も歓迎いたします。

祝発刊

学校長　山中順三

卒業生の皆さん、元気で職場に学窓に活躍のこと、これに過ぎる喜びはありません。

母校も創立以来三十六年を閲みし、卒業生三千三百余を数え、学界に、教育界に、実業界に、官界にと本当に目覚ましい活躍振りでありまして、「建学の精神随所に実現さる」と申すべきでありましょう。

この時に当り、同窓会が会員との連絡を密にし母校への協力、後援を強めるため、会則の改訂、会報の発行を敢行されたことは、誠に時宜に適した企てであり、本当に嬉しく、且つは有難く存じております。皆さんの一層の協力を私からもお願いする次第であります。

尚、この上とも、皆さんには健康に留意の上、「やれば出来る」の石桜精神のもと、一層の精進をお祈り申します。

It's Sekio-spirited does it.／

本会役員

会長　松見得明（1）
副会長　戸嶋正夫（2）
同　栃内松四郎（10）
総務　日野岳浩（2）
同　柴内興宗（4）
会計　西在家寛（18）
同　村上照五郎（新2）
監事　藤沢省三（3）
同　鈴木健郎（8）
同　照井安彦（9）

理事
稗貫明彦（1）
同　小保内斉（2）
同　斎藤徳三郎（3）
同　佐々木長一郎（4）
同　菅久直（5）
同　村井新吉（6）
同　村田重治（7）
同　鎌田次郎（8）
同　猪原啓三（9）
同　砂子田喜一郎（10）
同　佐藤清八（11）
同　武藤文八（12）
同　武田武美（13）
同　小原弘次（14）
同　一戸成定（15）
同　池田健三（16）
同　小笠原昭三（17前）
同　大坪幸平（17後）
同　似鳥陽一（18）
同　陣ヶ岡誠（新1）
同　村松由高（新2）
同　上田晃（新3）
同　加藤恵（新4）
同　石川富喜蔵（新5）
同　佐藤秀典（新6）
同　佐野峯啓三（新7）
同　田中義男（新8）
同　岩井英司（新9）
同　阿部軍治（新10）
同　小原幸司（新11）
同　佐々木重男（新12）
同　泉沢敏男（新13）
同　武藤正吾（新14）

注　カッコ内は卒業回次

消息　本会々長松見得明氏は、この四月黒沢尻工業の教頭より藤沢高校の校長に栄転。

発刊にあたつて

会長　松見得明

大沢川原もとをおく、我が中学の同じ窓し大正十五年（昭和元年）母校が創立されて以来ここに三十有七年、第一回生は既に齢五十である。思えば余りにも速い時の経過である。

創立者である三田義正翁鈴木初代校長を始めそのかみの先生方は或は他界され勇退され、他に転ぜられて懐しい方々は既に一人も居られない。校舎も昭和十一年に大沢川原から長町の現在地に移転新築され、校名も岩手中学校、岩手高等学校と二通りの呼称をもつに至った。

このように形体も内容組織も変り、過去の記憶を呼び起し、懐旧の情を催させるよすがとなるものは何一つ残っていないにもかかわらず、校門の前に佇立する時、岩手中・高校の名を耳にする時、まざまざと過去の記憶が胸中を去来し、懐しさでいっぱいになる。これは私一人だけの感懐ではなく、卒業生の誰もがいだく感懐であろう。不思議な生命と魅力をもつもの、―母校―である。

同窓会も工藤会長、松浦会長と二代に亘って逐次形体を整え、不肖私が第三代目としてバトンを渡され、菲才をも省みずその責を担うことになった。そこで私は同窓会とは一体どんなものだろうと考えてみた。

私はこう思う。同窓会というものは何も会組織そのものだけを意味するものではなく、勿論会長以下役員をもって構成されている執行部をさすのでもない。二・三人の集いであっても、それは同窓会であり、母校について話し合ったり在学当時の思い出を語り合うことも同窓会活動の一つであり、友の身の上を思いやるのも同窓愛の表れである。してみれば我々の集うところ「我が中学の同じ窓」の世界であり「心ひとしく健やかな」心の交流であり「高き遠きに憧れる」生命の発展に他ならない。

しかし、ただそれだけでは実体だけに止まり、それに伴う形体がないことになる。そこに同窓会なる団体が形作られ、中核としての長がおかれ事業が必要になってくる。そこで私はこの会をもっと体系づけ、その活動を集約し、実践活動を強化したいと考えたのである。役員各位の御協力を得て総務から発表した事柄がその一つの現われであるがその計画が実現するもしないも、卒業生一人々々の肩にかかっているのであって極端に云うならば私の責ではないとも云えると思う。何故なら、同窓会は卒業生一人々々のものだからである。

どうか、やがて会誌発行まで辿りつきたい念願で石桜と共に初めて活版刷りにして発行した会報をお読みいただいて母校発展、同窓会充実のためお力添えを賜わるようお願いして止みません。尚三田翁のことについても懐しい思い出を書きたかったが紙数の都合で割愛せざるを得なかった。この次は皆さんから翁の思い出を寄せていただきたいと思っている。

発刊のことば

副会長　戸嶋正夫

〃夢多かりし少年時代、なつかしき想い出が学舎の隅々に刻まれている青春時代、これこそ吾が愛する母校である。〃

この度各位の要望によって同窓会の近況をお知らせする会報の発刊をみることになりましたのは御同慶の至りです。今までも再三この企画を考えましたが発刊の機に恵まれず、徒らに構想のみで伸展をみずに参りました。しかし今後は同窓生各位が共々この会報を育成し、血の通うものにしてゆきたいと思います。

創立三十七年を経て同窓会員も三千三百人を数え、益々母校が発展し、隆盛を極めて参りました。

この会報は盛岡を離れて各方面において活躍されております同窓生には母校との連絡機関ともなり、繋りでもあると存じます。

故郷の山河は年を経るほど美しさと懐しさか深く感ぜられるものと思はれますが、母校の故里も、校舎の内も外も老朽化はしてきましたが、何かその底流には心に溶け込む美しさと、あたたかさが感じられるような気がいたします。各地方におられる方々に少しでもこの企てが役立ち、心の慰めともなっていただくよう念願いたしております。

年は常に流転し、新しい後輩は毎年社会へスタートして参ります。各位にはよき先輩として愛情と威厳ある指導とにより母校発展の原動力となっていただきたく思います。これこそ石桜の学舎で学んだ者のみが知る心の繋りでもあると信じます。

県内外における各支部各位の御努力と団結によりまして、益々母校に光輝あらしめるようお願いいたし発刊の挨拶といたします。

予算案

（収入）		
会費	17,000円	170名分
入会金	17,000円	170名分
名簿代金	18,000円	180冊分
総会々券代	15,000円	150枚分
雑収入	7,000円	利子、その他
繰越金	244,627円	
合計	318,627円	
（支出）		
名簿印刷費	5,000円	新会員分増綴
会報発行費	60,000円	
総会々券印刷	1,000円	1,000枚分
新聞広告費	8,000円	総会広告その他
慶弔費	3,000円	
会議費	20,000円	総会 理事会 監査会
事務手当	24,000円	2,000円×12月
基金	100,000円	
予備費	94,127円	
通信費	2,500円	
雑費	1,000円	消耗品、その他
合計	318,627円	

決算報告

（自昭和34年8月1日
至昭和36年7月31日）

（収入）		
繰越金	152,748円	
会費	34,000円	340名分
入会金	34.000円	340名分
名簿代金	67,942円	710冊分
総会々券代	20,200円	202枚分
雑収入	21,462円	利子、その他
合計	330,352円	
（支出）		
名簿印刷費	63,912円	追加刷込分
慶弔費	1,000円	菊池先生逝去
総会々券印刷	700円	800枚分
会議費	12,515円	総会、理事会他
新聞広告費	5,500円	総会広告他
通信費	1,688円	
雑費	420円	用紙、ゴム印他
合計	85,725円	
差引残額	244,627円	

メガネは専門店で　各眼科病院指定

盛岡　水晶堂　で

盛岡大通り　サンビルデパート眼鏡部へ

石桜教職員会報告

遠藤貫中

昭和三十四年八月、松見得明（黒沢尻工高）石川新太郎（一戸高校）河島光雄（盲学校）君の間より岩手中学校、岩手高等学校卒業生にして教職関係の仕事に従事する者百五十名を超えるようであるが、会を組織して相互の親睦と教育研修をしては如何との意見があり、発起人三十八名を選出して依頼状を発送せり。

同時に会則案及び総会案内状を発送し、昭和三十四年八月二十二日発会総会を開催せり。（当日の出席者二十四名）

河島君の開会の挨拶に始まり、発起人代表松見君の挨拶、石川君の経過報告あり、岩手高等学校長山中順三氏の挨拶のあと私が議長となり、次の会則を審議決定せり。

石桜教職員会々則

一、この会は、石桜教職員会といゝ事務所を岩手高等学校内におく。

二、この会は、岩手中高等学校出身の県内教職員を以て組織し、相互の親睦と教育研修を図ることを目的とする。

三、この会は、前項の目的を達成するために次の事業を行う。

1 会員名簿の発行
2 会報の発行
3 教育座談会の開催
4 懇談会の開催

四、この会の役員は次の通りとする。

理事長一名、理事四名（県北、中部、県南、沿岸の四ブロックより各一名）常任理事若干名（盛岡市在住者）

五、この会に顧問をおくことができる。

六、役員の任務、選出、任期は次の通りである。

1 理事長は、会を代表し会務を統理し、総会を召集する。
2 理事は各ブロックの中心となり、会務の審議に当る。
3 常任理事は、会務を執行する。
4 選出は総会においてする。
5 役員の任期は一年とする。但し、重任は妨げない。

七、会議

1 総会、毎年八月に開催し、役員の改選、その他必要事項を決議する。
2 理事会、年一回総会直前に開催し、各ブロックの状況報告並に総会に提出すべき原案の審議を行なう。
3 常任理事会、総会に提出すべき原案の作成並に庶務会計の任に当る。
4 臨時総会、理事長或は常任理事が必要と認めた場合、適宜召集開催することが出来る。

八、この会の経費は、会費（年額百円）及び寄附金をもって充当する。

九、この会の会計年度は、八月一日から翌年の七月三十一日までとする。

附則　この会則は昭和三十四年八月二十二日から施行する。

引続き顧問に、岩手奨学会理事長三田義一氏、前岩手中・高等学校長佐々木哲郎氏、岩手中・高等学校長山中順三氏、一ノ関工業高等学校長牟岐詰雄氏を推薦し、役員を次の如く選出せり。

理事長　松見得明（黒工高）
理事（県北）石川新太郎（一戸高）
〃（中部）目時隆太郎（遠野高）
〃（県南）小沢東基（岩谷堂高）
〃（沿岸）波岡茂行（宮古小）
常任理事
小野一男（医大）
大沢靖（岩大）
近藤博（教育庁）
遠藤貫中（岩高）
佐藤正吉（盛工）
河島光雄（盲学校）
川村裕（厨中）
菊地武男（仙北中）
高橋武男（城南小）
武蔵半蔵（青山小）

昭和三十七年一月二十七日、第二回総会開催当日は岩手高等学校長山中順三氏一ノ関工業高等学校長牟岐詰雄氏の外三十七名の出席者があり、在学時代の思い出現下の教育問題に話題がつきず、次回には本会目的の一つである教育研修結果の発表を約し、八時解散せり。尚、

1、役員は近藤博君（教育庁）盛岡一高に転任につき菊池強君（教育庁）を選出の外重任。
2、松見理事長より、同窓会総会決定事項中、終身会費一千円納入の連絡ありたり。

最後に、本会のため海野政雄君（北上農業）が名簿を作成下さいましたことを連絡いたしますと共に、その労を感謝いたします。

支部便り

三人寄れば「岩中会」が出来ると云われるが、地区に、職場に、学園に支部は誕生し、組織されている。以下は本部に連絡のあった支部便り。

志和岩中会は八月十五日紫波町皆喜荘に於て開かれた。参会者次の通り。

城戸正男（昭和八年卒）
沼川武男（同十二年卒）
金田一皐造（同二十年卒）
作山雄一（同二二年卒）
小田中彰弘（同二二年卒）
西在家寛（同二二年卒）
弥勒地武彦（同二四年卒）
浅沼正夫（同二四年卒）
阿部淳也（同二四年卒）
照井潔（同二五年卒）
渡辺勇次郎（同二五年卒）
鷹觜民雄（同二六年卒）
鷹觜博康（同二七年卒）
佐藤忠三（同二八年卒）
鷹觜博（同三十年卒）
城戸隆弥（同三三年卒）
吉田陽司（同三五年卒）
鷹觜章（同三五年卒）
吉崎寛四郎（同三五年卒）
小田中史夫（同三五年卒）

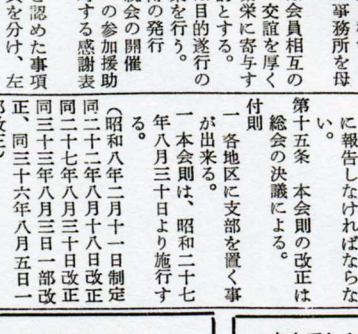
尚、同岩中会は結成以来十三年になる由。

北上地区岩中会は十月十七日、山中校長も出席して盛会、参会者次の通り。

松見得明（昭和六年卒）
目時隆太郎（同八年卒）
藤村久喜（同六年卒）
照井博（同六年卒）
志田良温（同六年卒）
菅野実（同七年卒）
佐々木隆平（同七年卒）
久保清（同十年卒）
佐々木晃（同十三年卒）
佐藤芳郎（同十三年卒）
海野政雄（同十九年卒）
松本明佳（同二五年卒）
後藤薫（同三五年卒）

岩谷堂地区岩中会は十一月十七日に開催

三好太郎（昭和八年卒）
飯富多喜男（同十四年卒）
小沢東基（同十五年卒）
浅田常夫（同二三年卒）
菊地一郎（同二三年卒）
杉山章（同二四年卒）
朱亡人



（写真は志和岩中会）

菊地真一郎（同二五年卒）
佐藤克己（同二五年卒）
高村哲郎（同二六年卒）

太空庵先生

目時隆太郎

此の間、探しものがあって押入れを開けたら、十文字にくゝった古い封書や、はがきの束が出て来た。何げなくほどいて次々と見てゆく。戦前戦中のものである。父からのもの、会津の教え子からのもの、友人からのもの、それに太空庵先生から戴いたものが四五通あった。

転住やら疎開やらで、もうとっくの昔に散逸させて仕舞ったものとばかり思っていた私は、それだけに胸をときめかしながら読み耽った。

独特な風格のある先生の御筆跡は、まことにお懐しい。先生の御人格が今に迫って来る思いがした。昭和十四年、まだ就職難の頃であるが、就職について御心配をいたゞいたこと、昭和十八年、父の病によって盛岡に転任しなければならなくなった際の、一方ならぬお骨折をいたゞいたことなど濃やかに親身も及ばない程の御親切を寄せていたゞいたのである。今更の様に今は亡き先生の御恩を深かめると共に吾が身の不甲斐なさを恥じたことである。

私は在学中から先生を特に尊敬申上げた。先生は詰襟の服をめされ、帽子は俗にいうワッペシャポで、校章を光らせながらステッキかゝえられて御出勤なさる途上、よくお会いした。威厳の中にも親しさを感じていたものである。

先生についての思出は限りなくある。毎日の様に行われた朝礼、そのお話はたいてい身近かなことであった。御老令の山田仁三郎先生が立たれたまゝ速記をされ、学期に何度か〝石桜〟という新聞に掲載されたものである。

何時ぞや山中校長さんと談偶々先生のことに及んだ際、校長室の戸棚の奥深く保存されてある創刊号から〝石桜〟綴をお見せいたゞいて感慨を新たにしたことがある。石桜精神の源が秘められている……何時かお借りして読んでみたいと思っている。

蛇の島は三田さんの農園で、そこに遠足が企てられたことがあった。了度その頃、農園には西洋スグリが冴々と赤く熟していた。私達はどうせ三田さんのものと甘え心もあって、寄ってたかって瞬く間に平げて仕舞った。そのスグリはジャムの材料となる値のするものだったそうである。太空庵先生が早速三田さんから大変お叱りをうけたという一件があって、その翌日でもあったろうか。多分日曜だったと思うが、全校生徒登校を命ぜられた。和服姿の先生が何時に変りなく、怒らず、力まずこん〳〵と諭された。確かに当時の私達の何げない仕業にも、何か強く考えさせられたことを思出す。

勤労園の作業、山野の跋渉、妙泉寺山の兎狩、寒稽古納会のお汁粉、マラソン大会の黒砂糖のお湯や蕨汁観武ケ原でのクロスカントリレース、その際の野外炊事の豚汁等々、すべて先生の御方針によられたものと思うが、当時の学校行事を今にして思えば、先生の御高見が察せられ、人間形成の要素として如何に大事なものかを痛感する。とかく昨今の様に公私立を問わず、そら学力向上だ、大学入試だと、一寸誤れば大事なものを見失って、ガリ勉を強いたゞくける結果となる懼なしとしないことを思うにつけて、まことに特色豊かな学校経営をされたものだと頭が下がる。

先生は自然に親しむこと勤労を愛好することを強調され、人格主義の教育を標榜された。私の心に今でも焼きついていることは、或る点では多少劣ることがあっても、この点では他に一歩も引をとらぬぞという優越感をもって努力せよとおそわったことである。

私に限らず、五回生あたりまでのどなたも思起していたゞけると思うが、校舎内外の大清掃を初めとして学校行事すべて職員生徒一丸となって当ったもので、正にパイオニヤスピリットが充ち満ちていた。

栃木県女子師範学校長を最後におやめになられた先生は、郷土の子弟教育のため、いち私立学校の初代校長を御決意されたものだったという。にも拘らず草創間もなく、呉の中学校長として御栄転はなされたものゝ、その間何か仔細の事情もあられた様である。当時私は四年生であったと思うが、夜分公園の広場に級友相集って先生のお宅を訪れた。銀行のパニックで修学旅行の積立金がとれなくなったのであったが、お別れ御留任をお願いしたことを思出す。事情はすでに私達の力では及ぶべくもなく、お別れしなければならなくなった。

告別式の場面が今日なお涙腺として蘇って来る。講堂の隅々からすゝり泣く声が増して来る。私も胸がつまって、遂床の上に大きな涙のこぼれるのを止め得なかった。その時のお話のうち私の記憶に残っていることは、岩手山麓に放牧されて悠々と草をはんでいる馬が、南部の駿馬として天下に名だたる様に、やがて君達の中からもきっと国家有為の人材が出て来るであろう。それを期待して止まないと申されたことであった。

私達は創立まだ浅い母校の三回生となるべき者として責任を感ずると共に、先生の御精神の発揚と校運の隆昌を念じつゝ努力を誓った。

（筆者は黒沢尻南高校長）

岩手中学・高等学校同窓会々則

第一条　本会は岩手中学高等学校同窓会と称する。

第二条　本会の事務所を母校に置く。

第三条　本会は会員相互の親睦を図り、交誼を厚くし、母校の繁栄に寄与することを目的とする。

第四条　本会は目的遂行のため左の事業を行う。

一 会誌及名簿の発行
一 総会及懇親会の開催
一 母校行事への参加援助
一 功労者に対する感謝表彰
一 其他必要と認めた事項

第五条　本会員を分け、左の如く定める。

通常会員　卒業生（卒外者を含む）
賛助会員　教職員（旧職員を含む）

第六条　本会に左の役員を置く。

会長　一名
副会長　二名
理事　各回並各支部一名
監事　三名

外に顧問を置くことが出来る。

第七条　役員の任期は二年とし、再選することが出来る。

第八条　会長、副会長は理事会に於て選出し総会の承認を得るものとする。

第九条　会長は、本会を代表し、理事会の決議にもとずき一切の会務を統理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はその会務を代理する。

理事は、理事会を構成する。

監事は会計を監査する。

第十条　理事会は重要なる事項を審議執行する。

第十一条　本会は年一回総会を開き、予算、決算の承認並に重要事項を議決する。但し、必要ある場合は臨時総会を開く事が出来る。

第十二条　通常会員は左記の会費を納入しなければならない。

一 入会費　壱百円（入会時）
一 終身会費　壱千円

第十三条　本会の会計年度は八月一日に始まり、翌年七月三十一日に終る。

第十四条　会員は住所、其他の異動ある場合は直ちに報告しなければならない。

第十五条　本会則の改正は総会の決議による。

付則

一 各地区に支部を置く事が出来る。

一 本会則は、昭和二十七年八月三十日より施行する。

（昭和八年二月十一日制定
同二十二年八月十八日改正
同二十七年八月三十日改正
同三十三年八月三日一部改正、同三十六年八月五日一部改正）

編集後記

▽こゝに石桜同窓会報創刊号をおくります。

沼川武男氏他数氏からも御寄稿ありましたが、紙幅の関係で次号に廻しますから御諒承ねがいます。

▽本紙の題字揮毫は戸鴨先生にお願いしました。

目時氏の稿「太空庵」（たいくうあん）は、初代学校長鈴木卓苗氏の号、御味読ください。

▽次号は更に充実したものにしたいと思います。支部情報等お寄せ下さい。尚本紙についてお気付きの点等ございましたら、御示教ねがいます。（西在家）

香り高い珈琲　美しい音楽純喫茶
純喫茶　ラ・ムール
盛岡市生姜町　TEL (2) 4797

61記録更新　体育堂のスポーツ用品で
藤沢体育堂
本店　盛岡市材木町　TEL (2) 2432
支店　花巻市吹張町　TEL 1141

なんでしょうか？　1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22
カメラの絞目もりです。この数字の関係は倍倍となります。言ひかえると絞 8 $\frac{1}{100}$ と絞 5.6 $\frac{1}{200}$ の露光指定は等しいということです。知つている人にはわかり切つたことですがカメラの絞について一言…
カメラと8ミリシネ　大通文化堂　盛岡大通 電 (2) 9716